Welwalk

トヨタ自動車株式会社
2023年3月発行（第55号）

ウェルウォーク通信

～あいちリハビリテーション病院様の稼働率向上を目的とした改革～

日頃はウェルウォークをご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。
今回は、『あいちリハビリテーション病院様の取り組み』についてご案内致します。

基本情報　医療法人仁医会　あいちリハビリテーション病院（愛知県西尾市）

- 病床数：回復期 145 床
- 療法士：74 名（ PT 37、OT 28、ST 9 ）
- 疾患割合：運動器 5 割、脳血管 4 割
- リハ単位：一日平均 18 単位/人

ウェルウォーク運用状況

- ウェルウォーク導入時期　：2019 年 5 月　　WWメンバー 9 名　　WW教育修了者：15 名
- WW訓練頻度　：新規対象者 約 2 名/月　　約 3 回/週　　訓練期間：2 週 ～ 2 ヶ月程度
- WW訓練対応者　：WWメンバー 1 名 + 担当PT　or　WWメンバー 1 名
- 対象疾患　：主に脳血管障害、脊髄損傷
- WW対象選定方法　：WWメンバーによる推薦 、担当医師からの推薦
- WWミーティング　：約 1 時間/週　　基本的にWWメンバーが参加
（実施症例の課題やパラメータ設定の検討、WW通信の閲覧、新規対象者候補の報告など）

ウェルウォーク運用におけるメンバーの悩み

- 準備（採型・脚調整）
- データ管理に時間がかかる
- ADL訓練や基本動作訓練の時間が減る
- WW訓練のみでは向上し難い機能がある
- WW操作方法の習得、教育に時間がかかる

メンバー外 リハスタッフからの声

- 「操作を覚えるのが大変そう・・・」
- 「ウェルウォークでしか介入できない？」
- 「高価な機械なのに使っていいの？」

『ウェルウォーク』の敷居が高くなってしまっているのでは？

ウェルウォークの意識改革！

改革 ① 準備（採型・脚調整）・ データ管理に関して

採型・脚調整表の作成

調整時に**視覚的に見やすく**様に脚調整表を作成（図1）

データ入力を省略

WWへのデータ入力を**省略**。
入力は訓練後の訓練記録のみ

改革 ② WW操作と教育体制について

WWメンバーの循環

WWメンバーに「**卒業**（脱退）」を設けて自由にWWを使用できるスタッフを増やす。
（卒業者は打診なくWW使用可）

操作指導の簡素化（図2）

WWメンバー外のPTが「**WWを使用できる**」という認識が高まるように
習得度合をA～Eで可視化

改革 ③ WWの頻度や効果の認識について

訓練頻度の自由化

頻度・期間は**自由に調整**可能
※WWミーティングでも検討

メリット・デメリットの明確化

「WW≠歩行向上」のみが役割ではないことや**訓練機器としての特性**を伝え、利用価値を認識してもらう。
WW以外の訓練の必要性も伝達。

目標 ⇒ 装具と同様の感覚で訓練ツールとして皆がWWを気軽に活用する！

ご不明点、ご質問等ございましたら下記メールアドレスまでご連絡下さい。
WW 臨床・運用相談窓口〈clinical-ww@mail.toyota.co.jp〉

TOYOTA

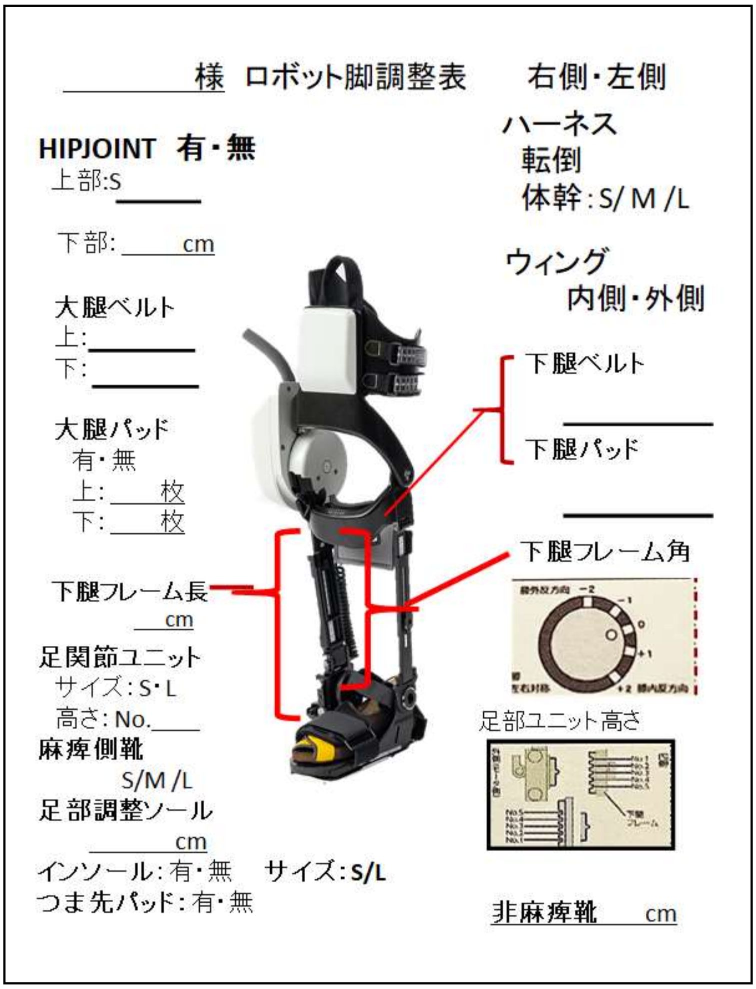
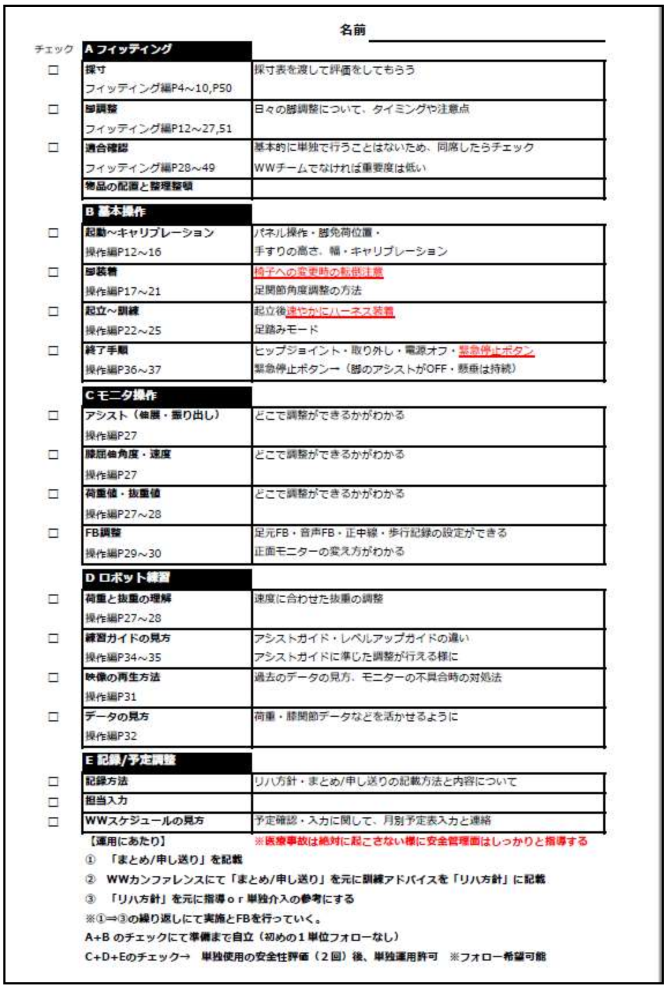


図1　作成した脚調整表



名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

チェック		
	A フィッティング	
□	**採寸** フィッティング編P4～10,P50	採寸表を渡して評価をしてもらう
□	**脚調整** フィッティング編P12～27,51	日々の脚調整について、タイミングや注意点
□	**適合確認** フィッティング編P28～49	基本的に単独で行うことはないため、同席したらチェック WWチームでなければ重要度は低い
	物品の配置と整理整頓	
	B 基本操作	
□	**起動～キャリブレーション** 操作編P12～16	パネル操作・膝免荷位置・ 手すりの高さ、幅・キャリブレーション
□	**脚装着** 操作編P17～21	椅子への変更時の転倒注意 足関節角度調整の方法
□	**起立～訓練** 操作編P22～25	起立後速やかにハーネス装着 足踏みモード
□	**終了手順** 操作編P36～37	ヒップジョイント・取り外し・電源オフ・緊急停止ボタン 緊急停止ボタン→（膝のアシストがOFF・懸垂は持続）
	C モニタ操作	
□	**アシスト（伸展・振り出し）** 操作編P27	どこで調整ができるかがわかる
□	**膝屈伸角度・速度** 操作編P27	どこで調整ができるかがわかる
□	**荷重値・抜重値** 操作編P27～28	どこで調整ができるかがわかる
□	**FB調整** 操作編P29～30	足元FB・音声FB・正中線・歩行記録の設定ができる 正面モニターの変え方がわかる
	D ロボット練習	
□	**荷重と抜重の理解** 操作編P27～28	速度に合わせた抜重の調整
□	**練習ガイドの見方** 操作編P34～35	アシストガイド・レベルアップガイドの違い アシストガイドに準じた調整が行える様に
□	**映像の再生方法** 操作編P31	過去のデータの見方、モニターの不具合時の対処法
□	**データの見方** 操作編P32	荷重・膝関節データなどを活かせるように
	E 記録/予定調整	
□	**記録方法**	リハ方針・まとめ/申し送りの記載方法と内容について
□	**担当入力**	
□	**WWスケジュールの見方**	予定確認・入力に関して、月別予定表入力と連絡

【運用にあたり】　※医療事故は絶対に起こさない様に安全管理面はしっかりと指導する

① 「まとめ/申し送り」を記載
② WWカンファレンスにて「まとめ/申し送り」を元に訓練アドバイスを「リハ方針」に記載
③ 「リハ方針」を元に指導ｏｒ単独介入の参考にする
※①⇒③の繰り返しにて実施とFBを行っていく。
A+B のチェックにて準備まで自立（初めの１単位フォローなし）
C+D+Eのチェック→　単独使用の安全性評価（２回）後、単独運用許可　※フォロー希望可能

図2　簡素化した指導工程表

WWメンバー

リーダーPTのコメント

ウェルウォークはまだまだリハビリツールとしての可能性を秘めていると思います。歩行能力向上のためのロボットという固定概念を捨て、患者さんが社会復帰をするための多くの支援ツールのうちの一つであるという認識をもち、本当の意味でウェルウォークを使いこなすことが大切だと思います。
今後も患者さんのためにウェルウォークを活用して理学療法士として臨床に臨みたいと思います。